

文 教 委 員 会 資 料

所管事務の調査（報告）

部活動の在り方に関する今後の方向性について

資料 部活動の在り方に関する今後の方向性について

令和 7 年 1 1 月 2 5 日
教 育 委 員 会 事 務 局

部活動の在り方に関する今後の方向性について

国の動き

1 「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」【R2.9、文部科学省】

- (1) 働き方改革の視点も踏まえ、教師の負担軽減を実現することが必要
- (2) 具体的な方策としては、休日の部活動の段階的な地域移行を図ること、合理的で効率的な部活動の推進等の取組を進める。

2 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」

【R4.12、スポーツ庁・文化庁】

- (1) 少子化が進む中、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しめる機会の確保に向けて、速やかに部活動改革に取り組む。
- (2) 部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは学校を含めた地域で育てる」という意識の下、生徒の望ましい成長を保証できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備

3 「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」骨子（案）

【R7.10、スポーツ庁・文化庁】

- (1) 「地域移行」という名称は、「地域展開」に変更。
- (2) 「改革実行期間」として、R8～R10年度（前期）、R11～R13年度（後期）を設定。
- (3) 休日については、改革実行期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現をめざす。
- (4) 平日については、各種課題を解決しつつ更なる改革を推進。

部活動の在り方に関する今後の方向性について

政令指定都市の動き

➤ 主な先行事例（令和7年10月各都市のHPを調査）

● 神戸市（令和8年度に部活動終了⇒地域クラブ活動に完全移行）

○平日・休日ともに生徒が地域の人々と活動する「コベカツ」に移行

・「仲間と楽しんで活動する」「目標に向けて一生懸命に取り組む」等、勝つことを目的とせず子どもの意向を尊重

・会費制とし、クラブ側が独自に会費を設定する一方で学校施設を活用し低廉な価格を目指す。

・参加クラブの一次募集では既存の部活動種目から着付け、ドローンまで620クラブが参加意向を示している。

● 熊本市（部活動は継続し、令和9年度から新しい体制に移行）

○地域と連携して学校部活動を継続

・拠点校部活動等を推進するとともに、部活動数を適正化

・親しむことを目的とした「チャレンジクラブ（仮称）」の設立

・教職員の兼職兼業を実施し、指導を希望する場合は引き続き指導にあたる。

・受益者負担についてはアンケート結果をもとに3,000円程度と試算

➤ その他、政令指定都市の動き

● 8都市で部活動の地域展開、地域連携について検討している。

部活動の在り方に関する今後の方向性について

これまでの経緯

今後の部活動の在り方を検討するに当たっては、部活動の主役である生徒の多様な意見を反映させることを目指し、これまで3つのステップに沿って取組を進めてまいりました。



部活動の在り方に関する今後の方向性について

○今後の部活動の在り方については、生徒のアンケート結果や代表者会議の結果等を踏まえ、「より生徒が主体となる部活動」「地域と連携した部活動」の2つの柱で取組を進めます。

これまでの
取組

生徒の意見

懇談会（大人の意見）

国や他都市の動き

今後の
部活動の
在り方

【2つの柱】

①より生徒が主体となる部活動へ

・教育の一環として行われ、有意義な取組である部活動を、今後も持続可能なものとするため、**多様化している生徒一人ひとりの考えを尊重し、それぞれの思いを共有しながら、顧問（指導者）の協力のもと、生徒自身が考えて活動する生徒主体の部活動としていきます。**

②地域と連携した部活動へ

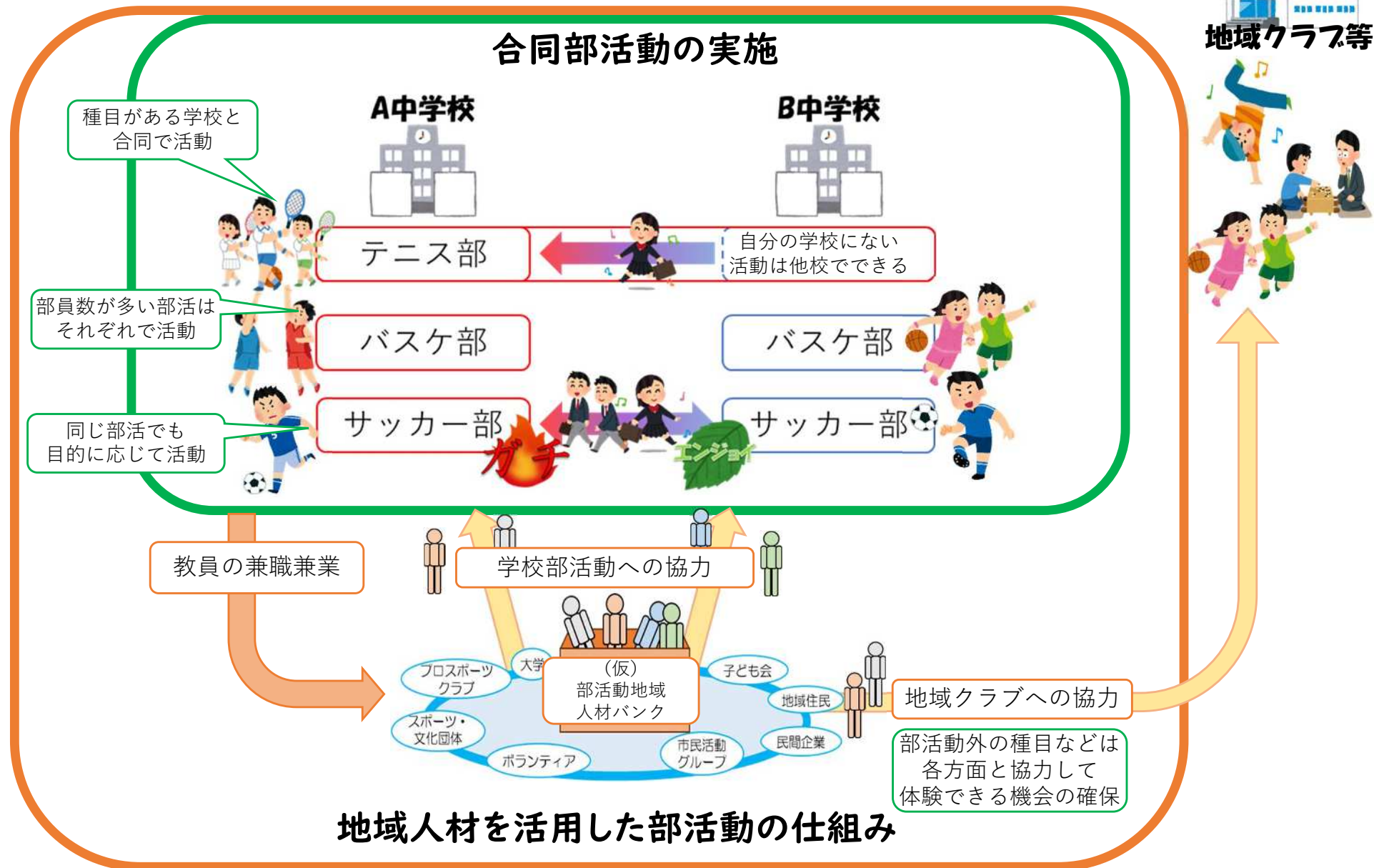
・「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」という考えのもと、地域全体で幅広いニーズに応えられるよう、地域のスポーツ・文化団体芸術団体など**多様な地域主体と連携を図りながら、取組を進めます。**
・平日は顧問の指導のもと部活動を行い、休日は地域指導者の指導により部活動を行うとともに、一部の学校では合同部活動を進めます。

学校の部活動を継続し、持続可能な活動へと進化

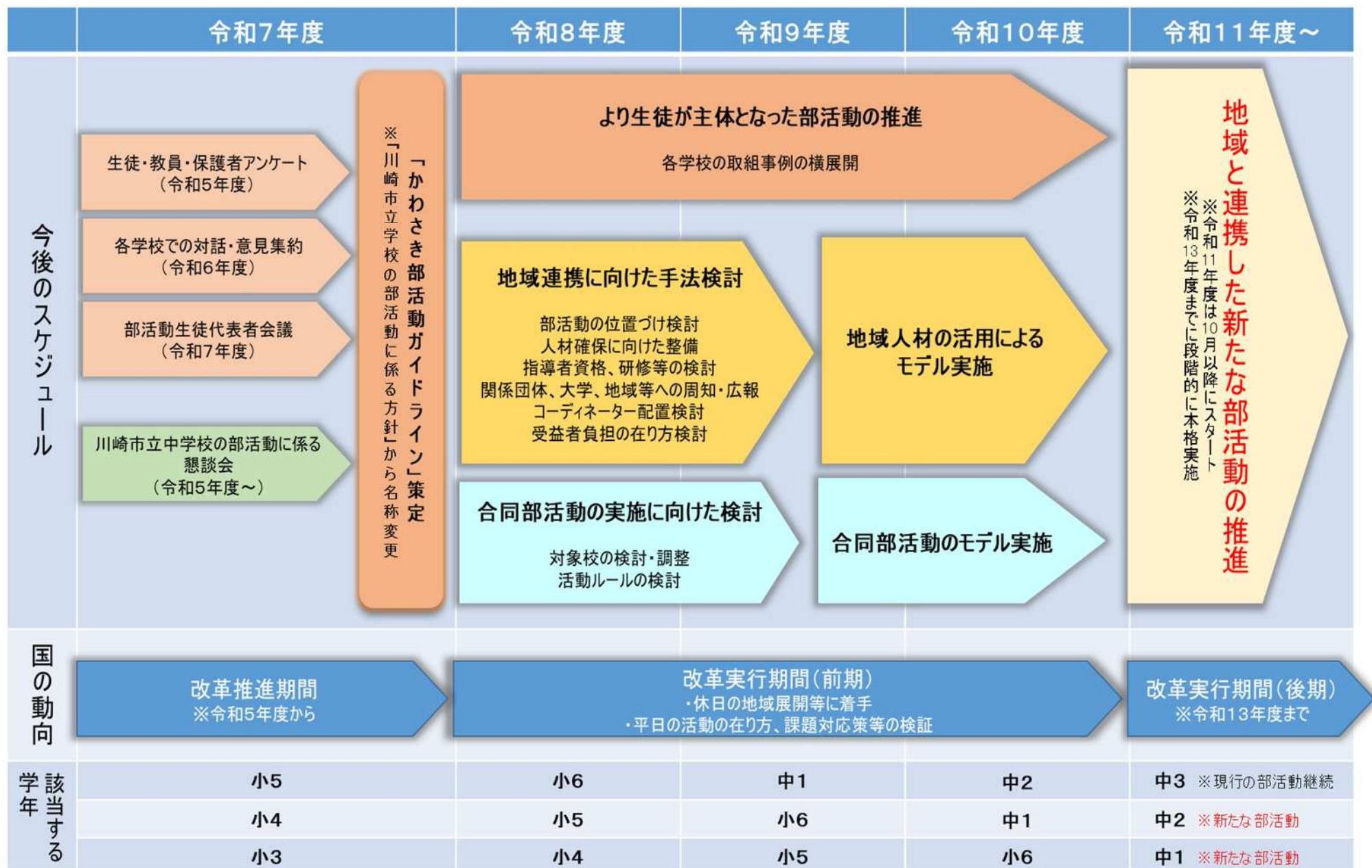
今後の部活動の在り方を反映し「かわさき部活動ガイドライン」として策定

(参考) 地域と連携した部活動の仕組み (将来イメージ)

- 平日は教員が、休日は地域人材が指導を行います。
- 生徒の多様な活動の機会の確保のため、一部の学校で合同部活動を実施します。
- 生徒のニーズに合わせて、部活動にない種目が体験できる機会を確保します。



地域と連携した部活動の推進に向けた今後のスケジュール（予定）



「かわさき部活動ガイドライン」の主な内容 (生徒フィードバックを想定)

はじめに

川崎市では、平成30年に「川崎市立学校の部活動に関する方針」を作り、みなさんの学校でもその方針にそって部活動を行ってきました。

時代が変化している中で、これからの部活動を考えるために、生徒・保護者・先生たちにアンケートを行いました。その結果を踏まえて、各学校で生徒による意見交換をしたのち、令和7年8月に**市内52校の生徒代表が集まって会議を開きました。**

そこで出されたみなさんの意見を基に、これからも楽しく・安心して続けられる**持続可能な部活動**にするために、川崎市は「部活動の方針」を見直し、新しく『かわさき部活動ガイドライン』を作ることにしました。

このガイドラインでは、**生徒のみなさんが「今」も「将来」も安心して活動できること、生徒や先生の負担が大きくなりすぎないこと、地域と協力して活動を続けていけるようにすることなどを大切にしたい**と思います。



かわさき部活動ガイドラインのポイント

①より生徒が主体となる部活動へ

生徒や教員が主体となって取り組みます

- ・ 生徒一人ひとりの考えが尊重され、思いが共有されることが重要です。
- ・ 生徒自身が考えて、みんなが納得感のある活動をすることが重要です。
- ・ 顧問（指導者）は生徒が楽しく安全に活動できるようサポートします。

②地域と連携した部活動へ

主に教育委員会が取り組みます

- ・ 地域の指導者や保護者の協力を得られるような体制を作ります。
- ・ 近くの学校と協力しながら活動を行うことを検討します。

※ガイドラインでは、今までの方針で示されていたものをわかりやすい表現に変え、各学校で取り組みやすいように例示を加えます。また、次のスライドからは、左側に代表者会議で出た生徒の意見、右側に生徒の意見を反映したガイドラインの内容を示しています。



部活動は中学生にとって**有意義**なものだから、誰にとっても持続可能なものが良いと思う。

生徒が考える部活動の意義

一生懸命に努力、目標達成までの力を身に付ける
礼儀・挨拶、社会性を身につけることができる
助け合う力、必要な体力や団結力
人間関係の構築（コミュニケーション能力）
自分の好きなこと、自分の長所を活かす
喜びを感じられる、成功・失敗を経験できる
結果を残して、感謝を伝える
新たに好きなものを増やす

部活に対する考え方が人によって違う／ので

みんなで活動しやすくなる取組をする

共通の目標、各自の目標

雰囲気づくり、励まし合い

話し合う（大事にしたいことの共有、感謝を伝える機会）

1 趣旨

部活動は、生徒が自分の好きなことをしながら、**人間関係の構築を図り、努力すること、礼儀、助け合う力など多くのことを身に付ける**ことができ、有意義なものであることから、今後、**継続していくため、持続可能なもの**とします。

部活動に対する考え方は人によって違うので、**みんなが活動しやすくなる取組を行う**こと。そのために、**生徒一人ひとりの考えを尊重し、また仲間同士、共通の目標をもてる**ようにします。

（取組の例）

- ・それぞれの部活動に対する思いを共有したうえでみんなの目標を決める。
- ・共通の目標と各自の目標を尊重し、励ましあいながら取り組む。



持続可能な活動にするために**生徒の自主的な活動**にすることと、希望の部活動がないなら他校と協力して活動するのも良いかも。

人によって部への考え方が違う / ので

部への参加スタイルを自分で決める

引退時期を自分たちで決める

たくさん練習したい人のために自主練を増やす

色々な練習方法を取り入れて的確な指示

をすることが大切

なので

先生の中でも役割分担する

得意分野、種目別、ポジションごと

📌「自主的な活動」ってなに？

「自主的な活動」とは、

👉「先生に言われたからやる」のではなく、👉「自分たちで考えて、自分たちの意思で取り組む活動」のことです。
たとえば…

- 部活の練習メニューや練習の仕方を自分たちで考える
- 部員同士で声をかけ合って、練習や準備を進める
- どうすればもっと楽しく、上手になれるかを話し合う

こうしたことが「自主的な活動」です。つまり、**みんなが主役になって動くことが大切**なんです！

2 適切な運営のための体制整備

生徒が部活動で**自己実現※**が図られ、**活動が自主的なものになるよう工夫**します。※自分らしさを大切にして、やりたいことをがんばること
(取組の例)

- ・部への参加スタイル（楽しむために、競技力向上のためになど）は、生徒が自分で決める。
- ・引退時期を自分たちで決める。
- ・練習したい人のために自主練習日を設ける。

部員や先生が少なくなると活動が難しくなるので、**近くの学校と協力しながら活動を行うこと**を検討します。

(取組の例)

- ・他校と協力しながら活動する場合は、先生の**得意分野を生かして役割分担**（技術面・生活面の指導等）する。
- ・それぞれの**学校の練習方法を体験**する。



部活動はしたいけど、勉強もあるし受検も気になる。定期的に話し合ってみんなが無理のない活動にできるといいな。

人によって部への考え方が違う / ので

部でミーティングを大切にして、
一人一人の意見を反映させる

一人一人の意見を取り入れる

アドバイスや意見交流

少ないメンバーでもレベルアップ / したいので

合同チームでも参加できる練習・大会
を増やす

他校顧問、外部コーチの指導

小学生に向けた体験部活

3 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進

学校では、部活動を行うときに、生徒としっかり話し合いながら、様々な目標に向かってがんばれるように、短い時間でも効果が出るような活動の工夫を行います。

(取組の例)

- ・ 定期的なミーティングで一人一人の意見を活動に反映させる。
- ・ 先生たちは、けがや事故が起きないようにしっかりと見守りを行う。

部員数が少なくて学校で部活動が続けるのが難しかった場合には、学校の状況に合わせて、部活動の種類や人数、場所などを考えます。必要があれば、近くの学校と協力しながら活動を行うことを考えます。

(他校と活動ができるメリット)

- ・ 他校の先生や外部コーチの指導が受けられる。人数がそろふ。



みんなが活動しやすくするため、目標などをみんなで話し合い、納得のいく活動ができるようにすると良いね。

部活に対する考え方が人によって違う／

再掲

みんなで活動しやすくなる取組をする

共通の目標、各自の目標

雰囲気づくり、励まし合い

話し合う（大事にしたいことの共有、感謝を伝える機会）

顧問と生徒の負担をなくす／

生徒主体

話し合い

納得のいく活動

相手の考えを理解する

4 バランスのとれた活動の運営

ルールを守りながら、生徒と話し合いのうえ、みんなが納得できるような活動の予定を立て、生徒や保護者にわかりやすく伝えます。

（ルール）

- ①週当たり2日以上 of 休養日
- ②活動時間は平日2時間（朝練含む）、休日3時間程度
- ③ノ一部活動デーの設定
- ④長期休業期間中のオフシーズン設定
- ⑤朝練習は実施する場合は、生徒・保護者・先生の負担とならないようにする。

週末に大会などで活動が続いた場合は、生徒の体を休ませるために、代わりの日に休ませます。

朝の練習を行うときは、なぜ必要なのかをはっきりさせて、生徒自身や保護者、先生にとって負担にならないようにします。



生徒はそれぞれの考え方やニーズがあるから、活動内容は、先生に頼るばかりじゃなく、自分たちで話し合って考えることが大切。

部活に主体性、思考力が高まる / ので

自分たちでメニューを決める

目標を明確に

強度も高まる

同じ場所や時間で集まるのは難しいけど/
共有は大事

なので

クラスルームを活用する

meet、連絡、動画、話し合い

5 生徒のニーズを踏まえた部活動環境の整備

定期的に話し合いの場を設けるなど、生徒たちが主体となって活動することができるよう、指導に努めるようにします。

(取組の例)

- ・練習メニューを生徒中心に決める。
- ・生徒の安全を確保したうえで、自主練習も認める。
- ・生徒同士のコミュニケーションをとる。

学校に生徒がやりたい部活動がない場合、地域のクラブ等と連携した活動や、近くの学校と協力しながら活動することが可能かどうか検討します。

近くの学校と活動を行う場合、常に集まることが難しい場合には、クラスルーム等ICTを活用し、コミュニケーションが取れるようにします。



地域の人たちにも協力してもらえよう
に、自分たちからアピールすることも必
要かも。小学生とも積極的に交流しよう。

青春したい / ので

地域の全てをお借りします
～笑顔で返そう地域のご恩～

施設を借りる 保護者、地域の人との協力

顧問と生徒の負担をなくす / ので

地域と協力しながらブカツの魅力を
アピールする

地域と交流 部活動で結果を出す

部員を増やしたい / ので

楽しさを知ってもらい部員を増やす

小学校に部活動紹介 楽しさを知ってもらう

6 地域との連携等

部活動の運営について、必要に応
じて、部活動指導員を配置したり、
地域や保護者等に対して協力等を求
めます。

(協力体制の例)

- ・ 学校運営協議会
- ・ PTA
- ・ 地域スポーツ関係団体
- ・ 地域文化関係団体
- ・ 近隣大学
- ・ 学区の小学校

小学生が中学校に入学後スムーズ
に部活動が行えるよう、入学前に部
活動体験会等を行うことを検討しま
す。なお、実施に当たっては、生
徒が小学生と交流を行う取組も有効
です。

かわさき部活動ガイドラインの主な内容

生徒フィード
バック用資料



大会は日ごろの活動の成果を発表できる機会だから、みんなで考えて、計画的に参加することが必要だね。

全員で目標に向かえるので

大会の内容、日程を考える

市総体 非公式の発表会、大会

技術向上、モチベーションがあがるので

OBOG、地域の方から指導を受ける

技能、モチベUP 人間関係が広がるように取組の推進

7 大会等の見直し

大会は、生徒が日ごろの活動の成果を発表できる大切な場ですが、たくさんあるとスケジュールが過密になり、練習の計画も立てにくくなります。

生徒や先生にとって負担が大きくなりすぎないように、出場する大会をよく考えて選ぶようにします。また、大会や発表の場が少ない部活動については、生徒が活躍できる場面を考え、目標を持って活動できるように考えます。

8 取組の推進

教育委員会では、学校と地域が協力して部活動をよりよくしていくための仕組みについて、これから考えていきます。